

家庭の役割・学校の役割 — 在日外国人の目から見た —
 東京家政学院大学 飯久保馬枝

目的：高齢化・国際化という大きな波に、いや応うなく変革を迫られる21世紀の日本を支える子供達に、学校や家庭でどのような教育を行なっていくべきか。これまでの高度経済成長を成し遂げて来た、勤勉で、集団順応的、他人志向的な人間でよいのか。独創性・柔軟性に豊んで、チャレンジ精神旺盛で、異文化間コミュニケーションに強い人間、他と異なることを恐れない人間が求められるであろう。前回研究に引き続き「内なる目」といわれる在日十数年の在日外国人の親から、現在の日本の教育に対する批判や要望を受けとめ、今後の家庭や学校のあり方を考える一資料としたい。

方法：日本全国（主として本州）に在住している外国人家庭で子供を日本の学校に通わせている親を中心に、アンケート方式及び家庭訪問による面接に拠った。

結果：前回の在日外国人家庭の親から見た日本の教育に対する画一性・集団性・知育偏重といった総括的な意見や批判の結果を示みえて、今回はより具体的、日常生活の上で、個人・家庭・社会のレベルで、学校や教師のどのような考え方や対応の仕方が、家庭や親の役割と感じ、対応の仕方に困惑するのかをより明確化した。